平成３０年度　第５号

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日　平成31年2月16日
発行者　舞鶴市健康・子ども部

9月19日　昭光保育園　公開保育を実施しました

昭光保育園において、初めての公開保育を実施し、神戸大学大学院　北野幸子先生にご指導いただきました。

木のぬくもりが感じられる園舎や自然豊かな園庭で、子ども達は自分の好きな遊びを夢中になって楽しむ姿が見られました。

下記のテーマにもありますように、子ども自らが興味を持ち、発見したり、深めたり、考えたり、好きな遊びを思う存分楽しめるように、子どもの興味や関心をもとにした環境の工夫や、遊びを広げていくための保育者の関わりなど、園内で何度も話し合われ、試行錯誤されている様子が伝わってきました。

参加園

永福保育園	うみべのもり保育所
岡田保育園	中保育所
さくら保育園	西乳児保育所
相愛保育園	朝来幼稚園
平保育園	倉梯幼稚園
タンポポハウス	橘幼稚園
なかすじ保育園	舞鶴幼稚園
東山保育園	
八雲保育園	※50音順
ルンビニ保育園	

【公開保育　研究テーマ】
子ども自らが興味を持ち、発見したり、深めたり、考えたり、好きな遊びを思う存分楽しめる保育に変えていくためには何をどうすればいいか、迷いながら、環境や保育者の関わりについて園内で話し合ってきた。環境を変えることで子どもの遊びが変化し、その中で保育者はどう子どもに関わるのか、保育者同士で共有しながら試行錯誤している。

【公開保育の視点】
子どもの興味・関心をもとにした環境構成
遊びを広げていくための保育者の関わり

何かを作ることが目的にならないように、作ることを通して何を育てるのかが大切ではないかと考える
～北野先生コメントより～

【製作遊び】 4歳児
お店屋さんごっこの食べ物作りでは、どうしたらより本物らしく見えるのか、おいしそうに見えるのかなどを、友だちと相談したり、自分なりに考え、工夫しながら作っている姿が見られました。完成した品物を小さい子達に見せにいくなど、異年齢の交流も見られました。

＜北野先生コメント＞
・出来た作品を1歳児クラスに見せに行くなど、異年齢との関わりが見られとてもよかった。
・何かを作ることが目的にならないように、作ることを通して何を育てるのかが大切ではないかと考える。

【園庭遊び】 3歳児
第2園庭では、豊かな自然環境の中で思いきり体を動かして遊んだり、虫探しを楽しむ姿が見られました。また、砂場では友だちや保育者とやりとりをしながら、ごちそう作りを楽しんでいる子ども達の姿も見られました。

＜北野先生コメント＞
・自然が豊かで草花がたくさんあるので、摘んで活用し、何かの作品につなげてみるのもよいかもしれない。
・草花や水を用意し、色水へと発展させると面白いかもしれない。作ったものを飾れる棚などを用意することで、ごっこ遊びへの展開にもなると思われる。
・3歳児だけでなく、年長児や年中児などがいたら異年齢の関わりもでき、虫探しもしやすいのではないかと感じた。

【泥んこ遊び】 2歳児
園庭では泥の感触を楽しんだり、水の心地よさを感じながら、夢中になって遊ぶ姿が見られました。また、泥んこを「お団子」や「ごはん」に見立てて、「どうぞ」と友だちにごちそうするなど、関わりながら遊ぶ姿も見られました。

＜北野先生コメント＞
・乳児のときに、砂場で団子を作ったり、穴を掘ったりする経験をすることで、4、5歳で造形活動をおこなう上での力となると考える。
・園庭はフラットではなく、でこぼこの方が全身を刺激されてよいと考える。

グループワーク

【グループワーク報告】
◎5歳児の片栗粉遊びでは、グループごとに固さを変えたり、「もっと片栗粉入れたら？」と子どもが考えたり工夫する姿が見られた。
◎子どもを認めてあげる保育者の声かけが大事だと感じた。
◎4歳児の子どもが、作りたいものが自分ではうまく作れず、保育者に頼りに行くことがあった。しかし、保育者は作り方をすぐに教えず、「〇〇くんが上手に作っていたよ？」と言い、子ども同士のつながりを大事にしていたのが印象的だった。

【グループワークからの質問～園回答～】
（質問）
4歳児の遊びの場面で、1歳児に作品を見せに行く姿があったが、普段から異年齢での関わりはあるのか？
（園回答）
1歳児クラスの子どもと兄弟が多いということもあり、普段から関わって遊ぶようにしている。
（質問）
4歳児の遊びの話し合いはどのように展開していったのか？
（園回答）
まずは散歩で商店街に行った。その後お店屋さんごっこに展開させるため、保育者が意図的に関わり「お店屋さん何したい？」と聞くようにした。
（質問）
これから保育者が予想している保育、予定している保育は？
（園回答）
今後も異年齢の関わりをしていきたい。子ども達からも作品を売りに行ったり、看板を作りたいとの声が上がっている。

溝邊和成先生　カンファレンス

保幼小接続カリキュラム策定検討会議会長の兵庫教育大学大学院教授　溝邊和成先生がご参加くださり、ご指導いただきました。
こうした保育が小学校にどのようにつながっていくのか、と言う視点でもご意見をいただきました。

【5歳児クラスの様子から】
◎集まりの前に保育者と子どもで一緒に遊びの準備をしていたが、自分達で準備をすることは、これからの活動を意識付けていくためによい。物がどこにあるかは自分達で片付けているから分かるのであり、片付けることの大切さに気付くことにもつながっていくのではないか。
◎片栗粉遊びでは、子ども達の会話の中で「ドロドロ」「プニプニ」など、どのようなものをどう作るかと言うことが、共通言語になっていた。1人の子どもが「プニズニになった」という造語を作っていた。体験が言葉を豊かにしており、遊びの経験を通して、言葉の獲得へとつながっていくと考える。
◎子ども達が水や、片栗粉の量などを紙にメモしていた。感覚的な体験から、数量的なものへと変化している様子が伺える。小学校になっても体験ベースから理解がすすむため、後の計量していく手立てとなっていくと感じた。
◎保育者の関わりとして、子どもに作り方を聞かれても、すぐに教えず「できた子に聞いてみたら？」と子ども同士が教え合ったり、考えられる関係作りをしていたのがよかった。
◎片栗粉を混ぜるのに揉めている姿があったが、このような体験により、友だちとぶつかった時などの対処の方法を学ぶことができるので、避けないで欲しい体験であると感じた。
◎振り返りでは、子どもの思い、発言したことをしっかり聞き、しっかり受け止め、子ども達へと伝えていくようにすることが大切である。
◎より体験豊かになるように、子どもの目線で保育室を見てみることで、環境作りのヒントになると考える。

北野幸子先生　カンファレンス

◎保育に唯一無二はなく、ゴールはないと考える。大事なのは保育を変えたい、変わろうという気持ちがあり、子どもをよりよく知ろうとしているか、ということだと思う。

◎一番の評価者は子どもであり、子どもが主体の保育になっているか、子どもの興味･関心を中心としているかが大事ではないかと考える。

【環境】
◎保育室には、読んだり、書いたり、調べたりできるコーナーや、長さ、重さ、大きさがはかれたり、比べたりできる環境があるとよいと考える。
◎製作コーナーの素材については、豊かさが大切であり種類はバラエティがある方がよいと考える。
◎描画については、家庭での描画経験も影響してくると思われる。「木は茶色」などという固定概念を持たないように、様々な色の用意をすることが大切だと考える。発達を考え、どういう素材が適しているのか、クレパスなのか絵具にするのかということも考慮していくことが大切ではないかと感じた。
◎砂場には、カップ･ジョウロ･すりこぎ･泡だて器･机や台などもあるとよい。量は限定してもよいが、種類は豊富な方がよいと思われる。
◎リトミックについては、例えば、『うさぎはこの動き』と決めてしまわなくてもよいと考える。うさぎに変身するなら、子どもが実際にうさぎに触れたり、見たりしたことがあるのかが大切であり、子どもがうさぎを理解したうえで、リトミックにつなげていくことが大切ではないかと考える。

【子どもへの関わり】
◎過干渉だと「〇〇していい？」と聞くことが多くなる。保育者が意図的に、「そんなの聞かなくていいよ」と返していくことが大切ではないかと思われる。
◎(0歳児)泣くことは悪いことではないので、泣かさないようにするのではなく、子どもが泣いていたら「何で泣いているの？」「どうしたの？」と泣いている理由を共感することが大切ではないかと考える。

【振り返り】
◎4、5歳児の『振り返り』では、子ども同士が思いを伝えられるようにすることが大切であり、保育者が入り過ぎないようにするとよいと思われる。
◎3歳児から『振り返り』をすることが望ましいと思うが、3歳児は具体性がないと難しいため、遊んだその場で行うのがよいと思われる。実物を見ながら振り返ることで、関心度や集中力も高まるのではないか。リアリティーや話したい気持ちを大事にしていくことが大切ではないかと考える。

9月18日ドキュメンテーション研修を実施しました

4グループ(1グループ4人～5人)に分かれてグループワークをおこないました。前半には、事例のドキュメンテーションをもとにワークシートを活用しながら、遊びの中の育ちや学びを読み取り、グループごとに協議をおこないました。後半では、乳児・幼児それぞれの事例をもとに、ドキュメンテーションを書くワークをおこないました。

北野先生からは、協議していただいたドキュメンテーションの一つ一つについて助言をいただき、学び合いました。ドキュメンテーションを提供してくださった先生はもちろんのこと、参加の先生方も多くの学びを得ることができました。ドキュメンテーションを提供してくださった先生方ありがとうございました。

参加園

永福保育園
岡田保育園
さくら保育園
相愛保育園
平保育園
タンポポハウス
なかすじ保育園
東山保育園
八雲保育園
やまもも保育園
ルンビニ保育園
うみべのもり保育所
中保育所
西乳児保育所
朝来幼稚園
池内幼稚園
舞鶴幼稚園

※50音順

子どもが何をおもしろがって何に気付いて何を試しているかをしっかり見ることが大切であると考える

【0歳児ドキュメンテーション：泡はどこ？】

◎0、1歳児のドキュメンテーションを書く時のキーワードは安心・安定・居心地のよさだと考える。養護の部分を保護者に伝えていくとよいと思われる。

◎物に気付き『おもしろいな』と興味を持ち、与えられた経験の中で自分から触ってみようとする姿は意欲の芽生えである。そしてつかんだり手につけたり展開していく姿に子どもの主体があると考える。

◎水に泡をつけて『泡はどこにあるかな』と探す場面は大事なキーワードといえる。子どもが気付いたこと、泡が消えておもしろいと思ったこと、さらにはどこにいったのかと探したことなど、物に気付いておもしろさを発見して探すといった探究心が育まれるのが1歳前後であると考える。

◎物に気付く、物とかかわる、楽しむという場面は0、1歳らしい姿であり、そこを強調するとよいと思われる。

◎感触を明記したことに加えて気付くこと、探究心の部分がキーワードとして入るとよいと思われる。

◎子どもが探求できるよう環境構成や教材の準備をしていることや保育者の援助の工夫を書いていくとよいと考える。

【2歳児ドキュメンテーション：うんとこしょ　どっこいしょ】

◎保育所保育指針にもあるように、『繰り返しのある言葉』や『言葉のリズムを楽しむ』という部分は1歳児以上3歳未満の発達の姿でもある。

◎リズムやイメージの共有に加え、行為についての協同性があるとよいと考える。たとえば、模倣などは行為、協同であり、その記述があるとさらに、わかりやすくなるのではないか。

◎『ストーリーがあるわけではありませんが・・』と書くと不足の書き方と捉えてしまいがちである。保護者は結果主義的であり、『まだ～できない』に視点がいってしまうので書き方には配慮が必要だと考える。

◎先の見通しを書くことは大事だが、今の育ち、援助の工夫、環境構成したことを意識して書くようにするとよいと感じた。

【2歳児ドキュメンテーション：影って不思議】

◎自分の姿が影になっていることに気付く姿は、自我の芽生えの時期の2歳児だからこそ自分の投影がおもしろいと感じた。

◎子どもが何をおもしろがって、何に気付いて何を試しているかをしっかり見ることが大切だと考える。

◎まとめのところで『気付く』『試行錯誤』のキーワードを入れると、子どもがおもしろがっていることや、気付いていることを保護者に理解してもらえるのではないかと考える。

◎この時期はゆっくり進んでよい時期であるので、まずは自分の行為、自己、次に他者、他の事物へと広げていくとよいと考える。

【3歳児ドキュメンテーション：樋遊び】

◎子どもと子どものコミュニケーションの発展を促す援助がなされていると感じた。保育者の援助を遠慮せず書いていくとよいのではないかと考える。

◎2歳児の時期に共感の言葉『楽しかったね』『～ね』をしっかり身につけてからの3歳児の時期は、ごっこ遊びの宝庫であり、もっと楽しく、おもしろく、新しいことやってみたい意欲がぐっと伸びる時期と考える。個人差により個から抜け出せない子どももいるため、子ども同士の対話を促す援助や、さらなる活動が発展していくことを促す言葉がけ『もう1回してみよう』などが大事ではないかと考える。

◎好きなことを友だちと夢中になって遊ぶことにより、遊びを発展させていく大事な時期と考えている。

◎子どもとの相互作用の中で子どもの興味・関心を拾いながら、さらなる環境構成や教材準備をし、子どもと一緒に発展させています、ということを書いてくとよいと考える。

【5歳児ドキュメンテーション：かいぞくせん作り】

◎こんな風にお互いに気付き合えるようこんな言葉がけをした、子ども同士をつなぐ言葉がけをした、など保育者の援助の工夫、環境構成についてもっと保護者に伝えるとよいと感じた。

◎『～しやすいように』『～を用意し』『～のために』など、理由があって言葉がけをした、準備や環境構成をしたと一行入れるだけで教育的意図やプロとしての援助の工夫、環境構成などが保護者に伝わっていくと考える。

◎子ども達の創意工夫を広げて対話的で深い学びにつながっているなど、ちょっとしたキーワードとして入れてもよいのではないかと考える。

◎『これでいいかな』など、ゆさぶりの質問も大事だと考える。

◎『考える姿が見られました』という記述には、『～のように』『こんな会話もあって』など具体的に書くと臨場感が増すと考える。

◎考察には意図的環境の構成や子ども同士をつなげる言葉がけ、発展につながるような質問をしました、などを書いていくとよいと思われる。

例）言葉がけの工夫を行い、話し合いの場面を設定することによって、個々の子どもの創意工夫をお互い気付けるよう促しました。その結果、こんな姿が見られました、～な活動が促されました。など

◎保育者の援助や工夫がありこんな効果があった、ということを保護者に伝える事が大切であると考える。

保育者の援助や工夫があり、こんな効果があった、ということを保護者に伝える事が大切であると考える